

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	情報学の理解者を増やす努力を！
Title(English)	
著者(和文)	古井貞熙
Authors(English)	SADAOKI FURUI
出典(和文)	情報・システムソサイエティ誌, Vol. 14, No. 1, pp. 3
Citation(English)	, Vol. 14, No. 1, pp. 3
発行日 / Pub. date	2009, 4
URL	http://search.ieice.org/
権利情報 / Copyright	本著作物の著作権は電子情報通信学会に帰属します。 Copyright (c) 2009 Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.

情報学の理解者を増やす努力を！

フェロー 古井 貞熙

東京工業大学



最近、私どもの研究分野の内容やその背景を、一般の方々に知っていただくための本を、ある出版社から出しました。理科離れとか、情報離れとかが言われる中で、学問としての情報科学・工学、その社会とのかかわり、人間とのかかわりを、もっと多くの方々に知っていただく努力が必要だと思ったからです。われわれ研究者は、情報学の真の姿、その楽しさ、面白さを、高校生など一般の方々に知っていただく努力が、不足していると思います。世の中の多くの人たちは、情報を単なる道具を開発する分野と考えていて、広範な学問分野の基礎となっていることを理解している人は少ないのが現状でしょう。情報の根幹が広く理解されるための努力が、求められていると思います。

近所の本屋さんの棚に並んでいる本を見ると、情報という学問分野の面白さを書いた本は、ほとんどありません。私自身が、自分自身の専門から少しずれた情報分野について、手取り早く知識を吸収しようと思っても、それを満たしてくれる本はほとんどありません。情報について一般向けのやさしい本が極めて乏しいのは、この分野の研究者の怠慢ばかりではなく、この分野が日々変化しているので書きにくいということや、実績がないので出版社が乗り気でないこともあります。

私の今回の本に関しても、原稿がある程度できた段階で持ち込んでも、出版してくれるところがなかなか見つかりませんでした。幸い、ある出版社が乗り気になってくださいましたが、この分野での出版実績がなかったこともあって、原稿に関して、編集者から厳しい注文を沢山いただきました。私はこれまでに教科書をいくつか

書いてきましたが、それとは全く違う難しさに直面しました。私どもが当たり前と思って使っている言葉が、ことごとく「わからない」、「これではだめ」という烙印を押されてしまいました。「対数」、「パラメータ」、「確率モデル」、「正規分布」、「インデキシング」等々です。編集者からは、さすがにプロの視点から、サジェスションを沢山いただきました。出版社も、売れない本を出すわけにはいかないからです。学問的な事柄を、うそではなく、やさしく説明することがいかに難しいか、専門知識のない一般の方々の興味を引くのがいかに難しいかを、教えられました。

私自身の啓発活動として、これまでにしばしば、小学校や高校に出前授業で出かけたり、大学内で子供科学教室を開いたりしていますが、そのインパクトは極めて限られています。それに比べて、本が書店に並べば、全国の多くの方々の目に触れる可能性があります。それだけ大きなインパクトが期待できます。本学会で活躍されている多くの方々が、情報についての理解者を大幅に増やすような本を、是非書いていただきたいと思います。

現在、研究や技術開発の舞台で、理系・文系の領域を越えた諸学問横断的な分野の形成が求められています。このためには、理系の分野の理解者を増やすことが必要です。さらに情報分野自体の進歩と発展のためにも、周囲に沢山の理解者とサポーター、そして、正しく理解した上で批評や批判をしてくれる人たちを持つことが必要です。このような健全な状態を、早く実現したいものです。